

当時、困難視されていた「うめきた」開発は、関係者の並々ならぬご努力で実現することができた。貨物ヤードの移転先は長い間議論したが、吹田市のご協力がなかったら前進しなかったであろう。

財政事情が厳しい中で、国による土地取得の途は極めて狭いものであったが、大阪を含む関西をナショナルプロジェクトの「生活支援ロボット産業拠点」と定めてもらったこと、また、大阪駅北地区まちづくり推進機構において、ICT、ロボットを中心としたナレッジキャピタルの形成を決定したことにより、UR（都市再生機構）のB地区の土地取得の道が開けたものである。これを基軸に第1期の全体計画ができあがっていった。

この度、第1期ナレッジキャピタルの（仮称）大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジに最先端の研究を行う大学・研究機関が集結することは、ナレッジキャピタルの実現に弾みがつくものであり誠に喜ばしいことである。

「うめきた」は政府や大阪市の関係者並びに多くの方の英断により実現したものであるが、第2期を含めた全体像は、まだ見えていない。今後の協議におかれては、世界に誇れる構想とその実現性を考慮した素晴らしいプランを作成していただきたい。残された時間は少ない。

平成23年10月14日

関西電力株式会社

顧問 秋山喜久

昨年度は、「大阪駅北地区まちづくり推進協議会」の公募によって、大阪駅北地区（北ヤード）の新しい名称を「うめきた」に決定しました。また、アジア太平洋地域の情報の磁場となる、アジア太平洋研究所の設立に向け、道筋をつけることができました。国、地域の枠を超えた新たな知と情報の交流基盤となるよう期待しています。

このたび、ナレッジキャピタルで大阪市が計画している（仮称）大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジへの参画大学や研究機関が具体化してきたことは、大変喜ばしい限りです。

世界の「知」の拠点となり、関西・日本のみならずアジアを牽引するまち「うめきた」が誕生することを願っています。

平成23年10月14日  
住友金属工業株式会社  
代表取締役会長 下妻 博

2011年10月14日

(仮称)大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジへの期待

公益社団法人関西経済連合会  
会長 森 詳介

うめきたに誕生する知的創造拠点ナレッジキャピタルで、中核となる(仮称)大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジに進出する大学・研究機関が具体化したことは誠に喜ばしい限りであります。

いずれも卓越した実績を誇る我が国有数の機関であり、うめきたに集まる高度な「知」が「感性」「技術」と交流・融合し、新たな知的価値が次々に創出され、大阪・関西、さらには日本の持続的な成長・発展につながることを期待しています。

本年9月30日、関西6府県市は共同で、「関西イノベーション国際戦略総合特区」を申請しました。その中でうめきたは、国際競争力向上のためのイノベーション創出の核となる地区であり、関西が世界に誇る資源を有機的に結びつける拠点の役割を果たすこととなります。

うめきたのまちびらきまで1年半となりましたが、ヴィレッジを含む先行開発区域を是非とも成功に導き、それが引き続き計画されている2期開発への弾みともなるよう、経済界としても支援していきたいと考えています。

以 上